

この日本語、た
どこからきた
ニャン？

語源

NIHONGO GOGENZUKAN

図鑑

猫野シモベ

はじめに

——言葉とは、歴史である。

「え、何言ってるの？」と思われたら、すみません。いきなりすぎましたね。
この本は、言葉をテーマにした本です。

それも、特別な言葉、むずかしい言葉ではなく、ごくありふれた言葉。
たとえば、「ふつう」とか、「好き・嫌い」とか「すみません」とか。

「あざとい」「やばい」「はい・いいえ」「ケチ」なんていうものも。本当に、日常でよく使う、よく見る言葉ばかり。

でも、どうぞでしょう。

「どうしてケチのことをケチと言うか、ごぞんじですか？」

そう言われると、うっと言葉に詰まらないでしょうか。

ケチって漢字でどう書くっけ？ え、そもそも日本語？ ……あたりまえのように使っているのに、本質的な意味を聞かれると、答えられない。

この本では、そんな言葉の意味や起源などを詳しく紹介していきます。

そもそも、世の中のすべてのものごとは、言葉でできています。

たとえば、「あなた」や「みなさん」、「君」という言葉がなければ、今この文章を読んでいる方をなんて読んだらいいのか……（「そなた」とか？）。

「私」「仕事」「お金」「家」「靴」「音」「本」……こうした言葉がもしなかったとしたら、とたんに生活は不便になります。

「これはネコ」「あれはイヌ」「この曲が好き」「明日は休み」「今日は暖かい」「お疲れさま」……本当に、数え切れないほどの言葉たち。世界のありとあらゆるものは言葉で表現されて、私たちは言葉を通して世界を理解しています。

もし私たちがコンピュータのように思考できる生きものだったら、そんなにたくさん言葉は必要ありません。いくつかの記号や0～9の数字さえあれば、あらゆることを処理・表現できてしまうでしょう。

でも、そうじゃない。

世界にはたくさんさんの表現があって、たくさんさんの言葉がある。

それは、「人がいたから」です。言葉には、そのとき人々が込めた感情や、社会の背景があり、その都度、いろんな形・意味に変わってきました。

でもその一方で、千何百年も変わらず、使い続けられている言葉もあります。

だから、言葉は歴史。「人の営みの歴史そのもの」なのです。

そんな奥深くて楽しい言葉の世界を、みなさんと一緒に知ることができたらと、そんな思いでつくった本になります。

……でも、言葉だけではちよつとむずかしい感じがするかもしれないので、「ネコたち」に協力してもらいました。言葉の起源や歴史を、キュートなおネコさまの（たまに他の生きものたちも）写真とともに紹介する。そんな本です。

「え、なんでネコ？」

と思いましたか？ 実は、会社の人にも言われたんですよ。

でも逆に聞きますけど、**猫で不都合なことあります!?**と反論したのですが（心の中で）、一応こう説明しました。

「**猫と言葉の相性は最高で、シンクロ率が『∞』になるからです!**」

もちろん、ぽかんとされました。いや……こればかりは、言葉で説明するにはちと文字数が足りない……。「百聞は一見にしかず」とも言います。よろしければ、チラ見していただくさい。ということ、よろこそ、楽しい日本語の世界へ!



時とともに意味が変わっていった言葉

12	「ずるい」／関連語「卑怯」	34
11	「たぶん・きっと」／関連語「おそらく」	32
10	「がんばる」／関連語「無理」	30
9	「あいさつ」／関連語「礼」	28
8	「出世」／関連語「出張」	26
7	「ざんまい」／関連語「曖昧」	24
6	「仕事」／関連語「職業」	22
5	「美しい」／関連語「きれい」	20
4	「おとなしい」／関連語「おさない」	18
3	「ケチ」／関連語「浪費」	16
2	「ちょうい」／関連語「ちょうかい」	14
1	「まさか」／関連語「ありえない」	12

17	「あたりまえ」／関連語「知識」	44
16	「すごい」／関連語「さすが」	42
15	「あざとい」／関連語「あばずれ」	40
14	「ちゃん・さん・さま」／関連語「くん」	38
13	「やから」／関連語「やくざ」	36
	日本人の知らニヤい仮名の話	
	「ネことわざ」その一	
	「鳴くネコはネズミを捕らぬ」	
	「ネことわざ」その二	
	「皿なめたネコが科(とが)を負う」	
48		48
47		47
46		46
44		44
42		42
40		40
38		38
36		36

調べたことなかったけどいつもそこにある言葉

29	「上手・上手い」／関連語「下手」	72
28	「好き・嫌い」／関連語「恋」	70
27	「寝巻き」／関連語「パンツ」	68
26	「明日・あさって」／関連語「あさって」	66
25	「昨日・今日」／関連語「おととい」	64
24	「ぜつない」／関連語「いとしい」	62
23	「やはり」／関連語「やわらかい」	60
22	「イライラ・ムカつく」／関連語「怒る」	58
21	「なるほど」／関連語「たしか」	56
20	「べんり」／関連語「かんたん」	54
19	「表・裏」／関連語「うらない」	52
18	「はい・いいえ」／関連語「返事」	50

35	日本人の知らないうちの話	86
	「ネことわざ」その三	
	「猫糞(ねこば)をきめこむ」	88
34	「高い・安い」／関連語「たかが知れる」	82
33	「おまえ・あなた」／関連語「あいつ」	80
32	「ちゃんと・ちょうど」／関連語「しつかり」	78
31	「まじめとマジ」／関連語「ガチ」	76
30	「めんどくさい」／関連語「やっかい」	74



時代の中で生まれたナウな言葉

- | | | |
|-----------------|---------------------------|-----|
| 47 | 「ダメ」／関連語「ムダ」 | 112 |
| 46 | 「おちよくる・ふざける」／関連語「ぼたえる」 | 110 |
| 45 | 「さぼる」／関連語「ポタージュ」 | 108 |
| 44 | 「すみません・ごめん」／関連語「ありがとう」 | 106 |
| 43 | 「めっちゃくちゃ」／関連語「むちゃ・むちゃくちゃ」 | 104 |
| 42 | 「ふつう」／関連語「当座」 | 102 |
| 41 | 「素人と玄人」／関連語「しらふ」 | 100 |
| 40 | 「すっぽかす」／関連語「ぼか」 | 98 |
| 39 | 「わんぱく」／関連語「おてんば」 | 96 |
| 38 | 「野暮」／関連語「ダサイ」 | 94 |
| 37 | 「きみとぼく」／関連語「おれ」 | 92 |
| 36 | 「やばい」／関連語「しゃばい」 | 90 |
| 日本人の知らニヤい和製漢字の話 | | |
| 48 | 「新米」／関連語「新参・古参」 | 114 |
| 49 | 「ややこしい」／関連語「稚児」 | 116 |
| 50 | 「しくじる」／関連語「やらかす」 | 118 |
| 51 | 「ややくそ」／関連語「うんこ」 | 120 |
| 52 | 「やまかん・やまを張る」／関連語「ヘアーン」 | 122 |
| 53 | 「四の五の・か八か」／関連語「丁半」 | 124 |
| 54 | 「本当とウソ」／関連語「謎」 | 126 |
| | 「ネコを追うより魚をのけよ」 | 130 |
| | 「ネことわざ」その五 | 129 |
| | 「ネコが肥えれば鯉節がやせる」 | 128 |
| | 「ネことわざ」その四 | 127 |



時を経ても変わらない言葉

66	「父と母」／関連語「じじとばば」	154
65	「暑い・寒い」／関連語「ぬるい・ぬくい」	152
64	「むなし」／関連語「うつろ」	150
63	「におう」／関連語「くさ」	148
62	「うるさい」／関連語「うざい」	146
61	「さっぱり・すっきり」／関連語「ポン酢」	144
60	「疲れる」／関連語「しんどい」	142
59	「からい・つらい」／関連語「あまい」	140
58	「ろくでもない」／関連語「しょうもない」	138
57	「恥ずかしい」／関連語「みっともない」	136
56	「いそがしい」／関連語「大変」	134
55	「おもしろい」／関連語「おもしろい」	132

73	「ネコは傾城の生まれ変わり」	175
72	「ネことわざ」その七	169
71	「横座に座るはネコかバカ」	168
70	「ネことわざ」その六	168
70	「同じ」／関連語「等しい」	162
69	「あたらしい・古い」／関連語「昔」	160
68	「白・黒・赤・青」／関連語「黄・紫」	158
67	「男と女」／関連語「乙女」	156
71	「言葉」／関連語「言語」	164
72	「ねこ」／関連語「いぬ」	166
73	「?・?・?」／関連語「?・?・?」	170



ngeru

貓

Chat

М у у р

Con mèo

Pişik

ねこ

बरिलो

ةطق

고양이

Gatto

Cat

Ikati

Katze

Kass

Gato

Mačka

К о т

Katse

Γ ά τ α

Kočka

Kedi

ىلب

Paka

କେଡ଼ି

မ္မဟ

Kedi

Mphaka

Bisad

बलि्ली

Katt



NIHONGO
GOGENZUKAN
PART

い

時とともに意味が 変わっていった言葉



時の流れは早いもの……。いつの時代も、人の間では言葉が交わされてきました。

その中では、たとえば現代で「ヤバイ」がポジティブな意味で使われているように、同じ言葉でも意味が変わっていくことが多々あります。

「あいさつ」「出世」「あざとい」など……何気なく使っている言葉も、その起源をたどると「え、そんな意味だったの!？」と驚くものも。この本の最初は、そんな言葉たちの歴史を紹介していきます。

まさか

masaka



意味

予期せぬこと

用例「まさか敵の正体が主人公の父だったとは」

まさか！ まさかねえ。など、「そんなこと起こるとは考えにくいが……」という意味を含んだこの言葉。

実は、万葉集にも事例がある。

ただ、現在の「まさか」とは意味が違い、当時は「今」という時間をあらわす言葉だった。

では、なぜ「今」を意味したかというところ、その語源が「目」だったからだと考えられている。

目の前のことを「目前（まさき）」と言い、ここから転じたものではないかという説が1つ。もう1つ、目をあらわす「ま（目）」、方向をさす「さ」、住処（すま）のように居場所をあらわす「か」が合わさった言葉だという説もある。

現在のような意味で使われるようになったのは、江戸時代になったからのこと。

ただ、「今日の前」という意味が、なぜ「予期せぬこと」につながったのかはわかっていない。昔は「まさしく！（そのとおり）」の意味でも使われていた言葉。

気になる関連語

ありえない

「ありえない」とは、「ありえる」の否定形。原型の「ありうる」は万葉集からあった言葉で、もとの意味は「世の中にあることができる」「生きていくことができる」の意味だった。